

(1) 概要

駐車場の安全確保のため、出入口への大型ミラーの設置、白線の引き直し、車止めの設置を行った。また、駐車場内の空きスペースに白線を引いて、新たに2台分の駐車区画を設けた。

各種講習会（要約筆記<全3回>、初級音訳<全11回>、初級手話<全35回>）を開催した。

3月に「地域で生きる障害者問題市民講座」を開催した。近隣地域の2事業所より4名の福祉専門職を招いて「福祉と医療、そして地域との連携」をテーマに講演会を行い、36名が参加した。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	各種講習会（要約筆記・音訳・手話）の実施	要約筆記講習会を全3回実施し、参加者は20名であった。 初級音訳講習会を全11回実施し、参加者は5名であった。 初級手話講習会を全35回実施し、参加者は15名であった。
2	障害者等の理解促進に係る啓発事業の実施	3月に「地域で生きる障害者問題市民講座」を開催した。近隣地域の2事業所より4名の福祉専門職を招いて「福祉と医療、そして地域との連携」をテーマに講演会を行い、36名が参加した。 例年12月に実施する箕面保育園との交流はコロナ感染流行により中止となったが、クリスマスプレゼントの交換を行った。
3	新規受講者の開拓	茶道教室（受講者7名）、華道教室（受講者7名）は毎年受講者が固定されている状況であったが、新規利用者の開拓に取り組み、茶道教室は3月に新たな受講者を1名迎えることができた。
4	館内の環境整備	前年度末に会議室のテーブル・パイプ椅子の買い替え、ホワイトボードの更新を行ったが、引き続き館内の設備・物品の状態確認、不要物品の整理を半年毎に実施した。
5	駐車場の改善の検討・協議	駐車場の安全確保のため、出入口への大型ミラーの設置、白線の引き直し、車止めの設置を行った。また、駐車場内の空きスペースに白線を引いて、新たに2台分の駐車区画を設けた。
6	園庭の有効活用方法の検討・協議	箕面市との協議は継続したが、具体的な運用の実施には至らなかった。

(3) 今後について

各種講習会、地域交流、障害者に関する啓発事業等を継続的に実施していく。館内の環境整備や駐車場の整備や満車時の対応、園庭のあり方などについて、箕面市との協議を継続的に行っていく。

(4) ささゆり園利用状況

	令和3年度	令和4年度	前年度比
開館日数	320日	321日	100.3%
利用件数	1,164件	1,530件	131.4%
利用件数 / 日	3.6件	4.8件	133.3%
利用者数	12,074名	17,136名	141.9%
利用者数 / 件	10.4名	11.2名	107.7%
利用者数 / 日	37.7名	53.4名	141.6%

事業名	令和3年度		令和4年度		前年度比 (人数比)	
	件数	人数	件数	人数		
障害者社会参加促進事業	36	266	42	297	111.7%	
[内訳]	茶道教室	18	115	21	138	120.0%
	華道教室	18	151	21	159	105.3%
ボランティア育成事業	48	672	49	515	76.6%	
[内訳]	手話講習会「入門・基礎課程」	35	530	35	389	73.4%
	音訳講習会<令和4年度：初級>	10	72	11	80	111.1%
	要約筆記講習会	3	70	3	46	65.7%
啓発事業（障害者問題市民講座）	1	43	1	36	83.7%	
貸館事業	1,079	11,093	1,438	16,288	146.8%	
[内訳]	障害者団体	472	5,891	704	9,570	162.5%
	ボランティアサークル	286	2,737	436	4,196	153.3%
	外郭・行政関係	133	1,540	137	1,581	102.7%
	その他	153	887	144	924	104.2%
	IT室	35	38	17	17	44.7%
合計	1,164	12,074	1,530	17,136	141.9%	

会議室等使用団体数(令和5年3月31日現在)

- ・ 定期利用団体：44団体（前年度比 ±0団体）
- ・ 随時利用団体：7団体（前年度比 ±0団体）
- 【合計】 51団体（前年度比 ±0団体）

(1) 概要

コロナ禍ではあったが、10月に利用者を8グループに分けてニフレルや神戸アトア、乗馬、麒麟ビール工場などへの園外活動を実施した。

医療的ケアが必要な利用者対応として、令和3年度より引き続き看護師の常時3名体制を維持した。さらに介護職がより多くの利用者に医療的ケアが実施できるよう喀痰吸引研修(実地研修)を実施して新規採用の職員2名が受講し、利用者10名に対して4行為の医療的ケアが新たに実施できるようになった。

利用者1名が逝去され、年度末の利用契約者は23名(前年度比 1名)となった。また、新型コロナの流行時期に複数利用者が感染した影響等もあり、平均利用人数は16.4名(前年度比 1.1名)であった

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	多様な活動による支援の実施	コロナ禍ではあったが、利用者を8グループに分けて感染対策を行いながら、10月にニフレル、神戸アトア、乗馬、麒麟ビール工場、神戸ウミエモザイクでの園外活動を実施した。
2	延長支援の実施	引き続き、個別支援計画に基づき生活介護の延長支援を男性3名、女性1名について実施した。また、延長支援の時間を活用し、嚥下機能トレーニング等も実施した。
3	入浴支援体制の見直し	日中活動に重点を置き入浴サービス日や開始時間等を随時調整した。入浴希望者に対して、他の社会資源(ホームヘルパー、訪問入浴)の情報提供を行った。
4	外部評価(指定管理アンケート・第三者評価)をふまえた対応	利用者家族との交流会を年3回計画し(内1回はコロナ流行により中止)、前年度の実績報告ほか利用者や施設での取り組みなどに関する報告を行った。障害特性に応じた支援の改善や職員の資質向上のため、専門家の助言・指導(作業療法士2回/月、嘱託医1回/月)を受けた。
5	介護職員による喀痰吸引等の実施	より多くの利用者に医療的ケアを実施するため、喀痰吸引研修(実地研修)を1月に実施した。新規採用の職員2名が受講し、利用者10名に対して4行為の医療的ケアが新たに実施できるようになった。上記研修実施により、生活支援員等の職員16名全員が喀痰吸引等を実施できる体制となった。
6	虐待防止・サービス向上の取り組み	チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、研修実施などにより、次回のセルフチェックでの改善につなげた。 12月に法人全体で開催した人権研修に21名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な支援などについて考える機会を設けた。 前年度の事故・ヒヤリハットの内容を分析し、その対応について9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに、施設内で共有した。 市内の医療機関と連携し、園内での健康診断、歯科検診に加え、新たにインフルエンザ予防接種を11月に実施した。 医療的ケアが必要な利用者対応として、看護師の常時3名体制を維持した。
7	感染症対応の徹底と維持	7月に感染症認定看護師による実地指導を受けた。N95マスクの推奨や消毒・清掃の要点などの指導を受けて、感染症対応の改善につなげた。職員、利用者ともに感染者は出たが、施設休所をすることなく、年間を通して営業を継続することができた。
8	医療的ケアのある利用者の地域生活支援の検討	利用者を通して新たに2件の医療機関等とのつながりを持ち、家族交流会や市民講座にて短期入所や訪問看護についての情報を提供した。
9	利用率向上・収入増に向けた取り組み	利用者1名が逝去され、年度末の利用契約者数は23名(前年度比 1名)となった。 コロナの流行時期に複数の利用者から感染者が出るなどの影響があり、平均利用人数は16.4名(前年度比 1.1名)であった。 介護給付費収入は7,994万円(前年度比 233万円)となり、経常増減差額は918万円(前年度比 76万円)であった。
10	支援学校新卒者の新規利用者確保	支援学校高等部3年生1名の体験実習の受け入れを行うとともに、学校教諭やご家族と次年度の利用に向けての調整を進めていたが、在学中に逝去されたため新規利用には至らなかった。

(3) 今後について

コロナ禍後を見据えた活動や支援のあり方を検討・実施していく。
高まる医療的ケアニーズに対応できるよう、引き続き看護師の常時3名体制を維持していくとともに、利用者の健康管理等を細めに行い、90%前後の平均利用率に近づけていく。

(4) 主な活動内容

- 行事等（プール、園外活動、忘年会、クリスマス会、年度末イベント等）
- 健康活動（エクササイズ、足浴、エアマット、ハンモック、スヌーズレン、健康診断等）
- 創作活動（さをり織り、組み紐、季節毎の展示物作成等）
- 文化活動（楽器演奏、カラオケ、コンサート、ボウリング、ボッチャ、園芸活動等）
- 屋外活動（個別外出、散歩、清掃活動等）
- 作業活動（空き缶つぶし等）
- 専門職による相談・指導（作業療法士・嘱託医への相談、音楽療法等）

(5) 医療的ケアの実施状況（令和4年度 利用対象者 16名）

内 容		人数	内 容		人数
たんの吸引	口腔内	12名	酸素投与（緊急時含む）	3名	
	鼻腔内	7名	人工呼吸器管理	2名	
	気管カニューレ内部	6名	カフアシスト	2名	
経管栄養	胃ろう	7名	ブジー	1名	
	腸ろう	2名	浣腸（摘便）	1名	
	経鼻胃管	2名	留置カテーテル	1名	
経管による与薬	胃ろう	2名	導尿	1名	
	腸ろう	1名	合 計（延べ人数）	52名	
	経鼻胃管	1名			
吸入		1名			

(6) 在籍者状況（令和5年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
令和4年度	23名	39.4歳	11.0年	86.7%	16.4名	
令和3年度	24名	40.0歳	10.1年	87.7%	17.5名	
令和4年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	23名	0名	0名	0名	0名	0名

(1) 概要

利用契約者数は9名（前年度比±0名）で平均利用者数も2.1名（前年度比±0名）、給付費収入は200万円（前年度比 3万円）と令和3年度とほぼ同様の利用状況であった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	サービスの質的向上	入浴ヘルパー1名を採用し、新任研修及び介護技術指導を4回実施したうえで入浴業務に従事させた。
2	入浴設備更新の検討	普通浴槽など入浴設備の老朽化が進んでいることから、設備の更新について箕面市と協議を行った。
3	入浴支援体制の見直し	利用者が固定化・長期化するなか、新規利用者の受け入れが困難な状況がある。必要に応じて他の社会資源の情報提供や調整を行うが移行する利用者はいなかった。また、新規利用希望者もなかった。
4	入浴ヘルパーの確保	近隣の大学等へスタッフ募集をするなど、継続的に募集の取り組みを行い、入浴ヘルパーを1名採用した。これにより、入浴ヘルパーは男性1名、女性2名体制となった。 入浴ヘルパーだけで対応できない時は、生活介護事業の職員で対応した。
5	利用者増に向けた取り組み	利用者の増減はなく利用契約者数は9名（前年度比±0名）であった。給付費収入は200万円（前年度比 3万円）であった。

(3) 今後について

入浴設備の点検を行うとともに、箕面市と協議しながら必要に応じて設備の更新を行っていく。

入浴利用者に対して、ニーズを把握するとともに、必要に応じて他の社会資源の情報提供や調整を行い、居宅介護、訪問入浴サービス等への移行促進も行っていく。

(4) 施設入浴サービス利用状況

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実施日数	242日	243日	100.4%
利用者数	510名	502名	98.4%
利用者数/日	2.1名	2.1名	100.0%

西小路拠点区分事業活動明細書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日

(単位：円)

勘定科目		管理運営事業ささゆり園	生活介護事業ささゆり園	入浴サービス事業ささゆり園	社会福祉増進事業ささゆり園	合計	内部取引消去	拠点区分合計
収 益	障害福祉サービス等事業収益	12,465,964	107,501,979	2,008,000	0	121,975,943	0	121,975,943
	自立支援給付費収益	0	79,948,704	2,008,000	0	81,956,704	0	81,956,704
	特定費用収益	0	1,016,900	0	0	1,016,900	0	1,016,900
	その他の事業収益	12,465,964	26,536,375	0	0	39,002,339	0	39,002,339
	経常経費寄附金収益	0	34,800	0	0	34,800	0	34,800
経常経費寄附金収益	0	34,800	0	0	34,800	0	34,800	
サービス活動収益計(1)		12,465,964	107,536,779	2,008,000	0	122,010,743	0	122,010,743
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	人件費	6,781,742	83,950,934	1,129,500	0	91,862,176	0	91,862,176
	職員給料	1,032,210	36,899,200	0	0	37,931,410	0	37,931,410
	職員賞与	145,702	8,152,521	0	0	8,298,223	0	8,298,223
	賞与引当金繰入	106,498	2,661,589	0	0	2,768,087	0	2,768,087
	非常勤職員給与	2,390,101	18,087,131	1,129,500	0	21,606,732	0	21,606,732
	派遣職員費	2,463,647	6,197,783	0	0	8,661,430	0	8,661,430
	退職給付費用	68,236	2,227,369	0	0	2,295,605	0	2,295,605
	法定福利費	575,348	9,725,341	0	0	10,300,689	0	10,300,689
	事業費	0	7,562,703	105,581	0	7,668,284	0	7,668,284
	給食費	0	784,992	0	0	784,992	0	784,992
	保健衛生費	0	487,367	0	0	487,367	0	487,367
	教養娯楽費	0	5,645	0	0	5,645	0	5,645
	日用品費	0	243,086	0	0	243,086	0	243,086
	本人支給金	0	50,499	0	0	50,499	0	50,499
	水道光熱費	0	2,428,669	105,581	0	2,534,250	0	2,534,250
	消耗器具備品費	0	602,835	0	0	602,835	0	602,835
	保険料	0	123,550	0	0	123,550	0	123,550
	賃借料	0	480,000	0	0	480,000	0	480,000
	教育指導費	0	72,949	0	0	72,949	0	72,949
	車両費	0	2,283,111	0	0	2,283,111	0	2,283,111
	事務費	6,872,874	5,836,089	657,558	0	13,366,521	0	13,366,521
	福利厚生費	21,810	259,241	0	0	281,051	0	281,051
	職員被服費	0	13,860	0	0	13,860	0	13,860
	旅費交通費	700	28,660	0	0	29,360	0	29,360
	研修研究費	0	37,488	0	0	37,488	0	37,488
	事務消耗品費	212,618	249,639	0	0	462,257	0	462,257
	印刷製本費	219,370	56,947	0	0	276,317	0	276,317
水道光熱費	2,745,466	0	0	0	2,745,466	0	2,745,466	
修繕費	208,934	11,706	0	0	220,640	0	220,640	
通信運搬費	197,597	317,268	0	0	514,865	0	514,865	
広報費	0	70,707	0	0	70,707	0	70,707	
業務委託費	2,024,826	3,558,141	657,558	0	6,240,525	0	6,240,525	
手数料	476	121,688	0	0	122,164	0	122,164	
保険料	12,770	312,348	0	0	325,118	0	325,118	
賃借料	0	102,660	0	0	102,660	0	102,660	
租税公課	0	816	0	0	816	0	816	
保守料	422,070	451,770	0	0	873,840	0	873,840	
渉外費	0	12,250	0	0	12,250	0	12,250	
報償費	806,237	230,900	0	0	1,037,137	0	1,037,137	
減価償却費	0	1,456,641	0	0	1,456,641	0	1,456,641	
減価償却費	0	1,456,641	0	0	1,456,641	0	1,456,641	
サービス活動費用計(2)		13,654,616	98,806,367	1,892,639	0	114,353,622	0	114,353,622
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		-1,188,652	8,730,412	115,361	0	7,657,121	0	7,657,121
サ ー ビ ス 活 動 外 増 減 の 部	その他のサービス活動外収益	80,108	992,768	0	0	1,072,876	0	1,072,876
	利用者等外給食収益	0	739,030	0	0	739,030	0	739,030
	雑収益	80,108	253,738	0	0	333,846	0	333,846
	サービス活動外収益計(4)	80,108	992,768	0	0	1,072,876	0	1,072,876
	その他のサービス活動外費用	0	533,688	0	0	533,688	0	533,688
利用者等外給食費	0	533,688	0	0	533,688	0	533,688	
サービス活動外費用計(5)		0	533,688	0	0	533,688	0	533,688
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		80,108	459,080	0	0	539,188	0	539,188
経常増減差額(7)=(3)+(6)		-1,108,544	9,189,492	115,361	0	8,196,309	0	8,196,309
特 別 増 減 の 部	サービス区分間繰入金収益	1,100,000	0	0	0	1,100,000	-1,100,000	0
	サービス区分間繰入金収益	1,100,000	0	0	0	1,100,000	-1,100,000	0
	特別収益計(8)	1,100,000	0	0	0	1,100,000	-1,100,000	0
	サービス区分間繰入金費用	0	1,100,000	0	0	1,100,000	-1,100,000	0
	サービス区分間繰入金費用	0	1,100,000	0	0	1,100,000	-1,100,000	0
特別費用計(9)	0	1,100,000	0	0	1,100,000	-1,100,000	0	
特別増減差額(10)=(8)-(9)		1,100,000	-1,100,000	0	0	0	0	0
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		-8,544	8,089,492	115,361	0	8,196,309	0	8,196,309
繰 越 活 動 増 減 差 額 の 部	前期繰越活動増減差額(12)	4,324,315	12,668,853	1,245,294	122,439	18,360,901	0	18,360,901
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	4,315,771	20,758,345	1,360,655	122,439	26,557,210	0	26,557,210
	基本金取崩額(14)	0	0	0	0	0	0	0
	その他の積立金取崩額(15)	0	0	0	0	0	0	0
	その他の積立金積立額(16)	0	6,059,000	0	0	6,059,000	0	6,059,000
事業運営積立金積立額	0	6,059,000	0	0	6,059,000	0	6,059,000	
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		4,315,771	14,699,345	1,360,655	122,439	20,498,210	0	20,498,210